

令和4年度諫早市地域包括ケア推進協議会 要旨

(提案・アドバイス・感想抜粋)

【在宅医療介護・連携推進事業】

- ACPを進めようと、病院でも、看護師さんを中心にコメディカルの方が、御家族が入院されたときに、ぜひ御家族と話そうということで持ちかける。言葉だけでなく概念も、こういうのが重要ですよというようなことを、市の広報でも、今後も少しずつ草の根活動でぜひ進めていただきたい。

【認知症対策推進事業】

- 2025年5人に1人が認知症の可能性がある。樋口恵子さん(90歳 評論家)が「認知症、みんなで支えれば怖くない」と言っており、みんなで支えていきましょうということだろうと思っている。
- 認知症の方の対応をとのことだが、専門機関、包括支援センター、ケアマネジャーの事業所もあるので、相談していただければある程度対応できるかなど。その情報をいただければ動ける。
- 薬剤師も、歯科医師もそうですけど、ドクターはもとより、認知症対応力の向上研修とか県レベルで受けていたりする。いろいろな相談窓口がたくさん市内にあることをアピールしていかないと、地域包括ケアシステムの評価、発見は難しく、対策も取りづらいのではないかなと思う。

【介護予防・日常生活支援推進事業】

- 若返り体操サークル立ち上げ時の7回専門職派遣について、これまでの成果、現在も続いているのか。また、したい人が出てきた時にどこに相談すればいいのか。
→相談は地域包括ケア推進課、立ち上げについては、市の保健師と、外部に委託している団体と一緒に立ち上げの支援をしている。令和元年度までは年に1~2件支援した経過がある。支援教室は、令和3年度21サークル。
- サークル活動で、若返り体操など私の町内のクラブではずっと続いており、週に1回、15,6人の固定したメンバーで、健康維持にはいいなと思っていたところ、コロナ禍で中断してしまいなかなか苦勞している。そういうところに市で、筋トレ、脳トレ、ロトレなど

の教室をお勧めくださったので、月1回、1年の計画でしており、あとは自主的に活動するような団体に誘導し、御指導していただくということに直面している。市が行っている活動を大いに進めていただきたい、非常に有意義なものだと思う。

3年に及ぶコロナを経過してきて、人がまず会うということが大変必要な時期になっている。人と人（高齢者と高齢者）の絆を深めていく、これが今分断されてしまっているのので、絆をつくり上げていくというような、毎月でもよい、決まったときに集まって顔を合わせてお茶を飲んで帰るといったことぐらいから話をスタートしたらどうかという話もした。

○語らん場について、コロナ禍で集まる機会が不足していく中で、いかにして地域で集まることが大事か。これだけのシステムをつくっているのに、末端の一般の市民の方たちはこの情報が本当に分かっていない方が多いと思う。その情報を伝達する上でも、地域の方たちが寄れる機会、この語らん場を何か発展形として、もっと一般の市民の方が寄れるきっかけを何とか市としてつくっていただけないかなど。そのきっかけを市で御支援願えればと思っている。

○介護予防教室も参加者が多くなってきて、例えば「フレイルとか御存じですか」と言っても、3、4年前は、誰も知らなくて、手が拳がらない状態だったが、今、全然知らないという人がいないぐらい、数名手が拳がるようになってきて、諫早市の普及啓発というか、少しずつ土台ができてきているのかなと感じている。すごく楽しそうにされているし、今後続けていきたいねということで感想も言われている。

○語らん場は小学校単位。本当は町内単位のもう少し小さいユニットでやってもらったほうがいいのかというふうに思っている。1人暮らしの方であんまり地域と交わらない方も中にはいる。難しい点があるかと思う。

○自治会は、単位からいうと今250ある。この近く、中心部でやっているのは、四つの町内で一緒にやろうと。4カ町ということで、単位を近隣でやるというのを今やっているが、そうでないとうまくいかないのもあるので、一つの単位だけではなかなかできないというのが一つ、今そういう動きがある。

【その他】

○自分が高齢者になったときにどういうふうな支え方をしてもらえらるだろうという思いがあり、長い目で見ると、すぐにでもしなければいけない施策があるかと思うが、そういうこともこういう有識者の皆様の集まりで話していけたらと思う。

- 相談に来られる方は、大体、独居か高齢者の御夫婦か子供さんがいても遠方というこの3つのグループに当てはまる方が非常に多い。自治会とか老人会とか民生委員の方からの受皿からこぼれてしまっている方が非常に多いなという印象を持っているので、そういう方たちに対しての支援の在り方も検討していただければと思う。
- 1人暮らしの方、極端に認知度が進んでいる方というのは、今日説明があった包括ケアシステムでは、声かけ、見守りに限界があるなど。1人暮らしで亡くなった事例は多分たくさんあって、ここら辺もこの事業かシステムの中で何かできないかなど。